

令和 8 年度

運営に関する計画

中間評価（全体会）

令和 8 年 1 0 月 2 0 日

大阪市立南住吉小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 7 年度は前年度の反省を踏まえ、以下の 3 点に特化した学校運営を進めた。

①「いじめのない安心安全な学校づくりに向けたさらなる取り組みの深化充実を図る」

②「ICT 機器の授業での活用を推進」

③「教員の授業力向上と児童の学力向上に向けた取り組み」

①については、「いじめ防止基本方針」の全教職員の共通理解と子供や保護者への丁寧な対応や、いじめアンケートの事前・事後指導の確認と徹底、そして、いじめ対応記録の保管場所や聞き取り内容の共通理解の体制づくりが進んだ。

②については、心の天気習慣化や ICT 推進委員会を立ち上げ端末活用事例や取り組みの共有を行ったり、子どもたちのタイピング大会を開催したりした結果、端末活用率は令和 6 年度から 50 ポイントの大幅上昇した。

③については、がんばる先生事業や学力向上支援チーム事業など大阪市の施策を活用し研究を進めた。研究のパッケージ化や他校との共同研究体制の構築、先進的な取り組みを行う学校への視察や研究発表会への参加を進めた。また、学習者用端末を活用し、作成したものを TV モニタを使って全体で共有するなど思考し深め合う授業改善を進めた。その結果、経年調査市平均正答率に対する校内平均正答率 7 割未満の割合が 7~11 ポイントの大幅減少 (3 年 23→12.6 4 年 23→16.7 5 年 20.3→11.3 6 年 28.3→16.7) が見られ、学力の底上げが進んだ。

以上のような成果が見られた。

課題としては、①にかかわる「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目の数値が前年度より 2.1 ポイント低下した。②に関わる学習者用端末の活用率は進んでいるが授業での活用が進んでいない。③に関わる話し合い活動については、本年度取り組んだ子どもが思考する授業は進んだが、子ども同士で学びあう授業については指標の数値が下がっている。

令和 8 年度も『ことば』を大切にすることをテーマに、3 つの取り組みを進め、生活指導を土台とした、学びの環境を整備し、学びあう子どもたちを育てていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

○「自分にはよいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市小学校学力経年調査におけるボリュームゾーンにあたる層の変化率を向上させる。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点の対全国比を向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を向上させる。

○「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。」に対して、「読書を全くしない。」児童の割合を減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70.0%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切を認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 79.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.1%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.02 ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 76.0%以上にする。
- 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。
- 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない。」と回答する児童の割合を 28.0%以下にする。

(様式例 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70.0%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82.0%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切を認めることができるていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 79.0%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】（学校規律） 「南住吉10のルール」「南住吉小学校のきまり」を活用して、全教職員が同じスタンダードで生活指導を行う。また、生活週間を実施し、学校規律を意識させ、自分は守れているのかを振り返る機会を設ける。これらの取り組みを通して、規範意識を醸成させ、どの児童も安心・安全に過ごせる学校にしていく。	B
指標 南住吉10のルールを月目標として毎月提示し、教員がその大切さについて指導する。また、年3回「生活週間」を実施する。	
取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】（いじめ） 「いじめ基本方針」を全教職員で確認する。児童に対しては「思いやり週間」を実施し、児童がいじめについて考える機会を設け、人を思いやる心を育てる。また、心の天気や相談機能を教員が確認し、児童の心の状態の把握に努める。気になる児童へは声をかけ傾聴の姿勢で困ったことはないか聞き取る。そして、組織として、学年会、生活指導部会、いじめ対策委員会で生活指導上気になる児童について共通理解をする。これらの取り組みを通して、いじめの未然防止、早期発見につなげる。また、教職員は相談できる相手という信頼関係を児童と築き、安心・安全に過ごせる学校にしていく。	B
指標 4月に教職員で「いじめ基本方針」を確認する。心の天気を毎日確認する。「いじめ・いのちについて考える日」に全校集会開き、全校児童でいじめについて深く考える。また、「思いやり週間」を学期ごとに実施する。教職員間では、学年会毎週、生活指導部会・いじめ対策委員会は毎月実施する。	

取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】（不登校） 昨年度策定した「不登校対応方針」と不登校対応フローチャートに沿って「チーム学校」で対応する。不登校児童に対して、登校支援ルーム「ぽかぽか」の活用や外部機関と連携し登校支援を行う。心の天気や相談機能を教員が確認し、児童の心の状態の把握に努める。気になる児童へは声をかけ傾聴の姿勢で困ったことはないか聞き取る。また、保護者へ連絡し、連携する。児童が安心して学べる学級・学校づくりを意識して、全教職員が教育活動を行う。これらの取り組みを通して、みんなが安心して学べる学校にしていくとともに、不登校児童へは学べる環境を整え登校支援をする。 指標 心の天気を毎日確認する。不登校傾向の児童、不登校となっているの家庭と毎月1回以上は連携する。	B
取組内容④【2、豊かな心の育成】（集団育成） ◎お互いに認め合える集団育成の推進 各学年・学級の課題に応じて、適切な学年・学級目標を設定し、その達成に向けて、児童一人ひとりが当事者意識を持って積極的に参画する場を設定することで、自己有用感や自己肯定感を高められるようにする。 指標 年度当初に学年目標・学級目標を設定し、学期ごとに、その到達度を集団育成部会や学年打ち合わせで共有する。「思いやり週間」や学級での「良いところ見つけ」などを通して、児童が自己有用感を高められるようにする。学年集会や学年行事を通して、自己有用感を高められるようにする。	B
取組内容⑤【2、豊かな心の育成】（人権教育） ◎人権を尊重する教育の推進 様々な人権を尊重する教育を通じて「自他ともに大切である」という心情を培う。また、暴言等を含めて、人が嫌がる行為をしないという教育を徹底する。 指標 各教科横断的に、マイノリティ（障がい者教育、障がい理解教育、国際理解教育等）を理解・尊重する学習や反戦・平和学習を計画的に実施し、豊かな心を育めるような個・集団づくりを進める。また、教職員は、年2回以上人権教育研修に参加し、内容の共有を図ることで、人権意識の向上に努める。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①「南住吉10のルール」「南住吉小学校のきまり」を活用して、教職員が認識を合わせて生活指導を行うことができた。また、生活週間を実施し、児童がルールやきまりについて振り返る機会を設けた。これらの取り組みを通して、規範意識を醸成させることに努めた。	
②心の天気や相談機能を教員が確認し、児童の心の状態の把握に努めた。そして、組織として、学年会、生活指導部会、いじめ対策委員会で生活指導上気になる児童について共通理解をしている。これらの取り組みを通して、いじめの未然防止、早期発見につなげている。	
③心の天気や相談機能を教員が確認し、児童の心の状態の把握に努めた。不登校傾向の児童については、登校支援（ぽかぽか教室）担当・担任・家庭が連携し、その子に応じた登校支援を行った。また、連続欠席児童を把握できるように、毎月の生活指導部会で理由に関係なく月10日以上欠席児童の共通理解を図るようにした。	

④学校目標到達や「うれしい言葉あふれる学校」を目指して、年度当初にその学年の児童の実態を分析し学年目標・学級目標を設定した。そして、毎月の集団育成部会において各学年の目標に向けての取り組み計画や達成状況を振り返りながら、学年や学校全体で共有することができた。また、「思いやり週間」を通して、仲間のよさや頑張りに目を向けたり、他者に思いを馳せたりする機会を設けることができた。さらに、学校行事ごとに「うれしい言葉」を増やしていけるよう児童に意識付けを行った。学級では終礼時にキラキラさん見つけなどを取り入れたり、一人一役で集団への責任を持たせたりすることで、児童一人ひとりがより有用感を高められるようにしている。
⑤計画的に、また事象があるごとに各教科横断的にマイノリティ学習や平和学習などの人権教育に取り組むことができている。さらに、ボードゲームを用いた取り組みによって違いを認め合い、互いに自分の思いを聴き合うことで豊かな人権感覚を育んでいる。その中で、児童一人ひとりが「自分を表現できる」場が少しずつ広がってきている。また、教職員も計画的に人権の研修会に参加し自己研鑽を深めるとともに、その学びを学年や学校全体で共有する機会を設けることができている。
今後への改善点
①「ルールやきまりはあるから守る」ではなく「守ることで、みんなの学校生活の安心・安全につながっている」という意識を醸成し、主体的に行動できるように指導していく。また教職員間での共通理解を今後も継続し、同じ認識のもとで生活指導を行っていく。
②児童の心の状況の把握、教職員間の共通理解を継続する。また、児童の小さな変化や気になる様子を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見につなげる。また、児童が相談できるように信頼関係の構築を引き続き行う。
③今後も、児童や家庭とのつながりを大切にしながら、一人ひとりの状況に応じた支援を継続する。登校だけを目標とするのではなく、どの児童も安心して過ごせる居場所と学びの機会を確保していく。また、児童の欠席数やその変化を担当や学年が把握し、学校全体で共有できる組織づくりを目指していく。
④学年目標や学級目標を振り返り、その目標に到達していけるように、計画的に学年・学校行事を進めていく。また、行事や日々の生活において児童一人ひとりがさらに「うれしい言葉」を使い、増やしていけるよう指導を続けていく。そして、行事や日々の活動を通して自己の存在意義や自己有用感、他者受容力高めていけるような工夫をしていく。
⑤児童に対しては、今後も人権意識が向上する取り組みを計画的に実施し、心豊かな個や集団を育成していく。また、教職員は、計画的に研修会に参加するとともに、住吉区人権教育実践交流会の発表校として準備を組織として進めていき、本校の培った人権教育を住吉区に広げられるようするとともに、各自の人権意識の向上も図るようにする。

(様式例 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における、国語のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における、算数のボリュームゾーンにあたる層の変化率を前年度より 1.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.1%以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 0.02 ポイント向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【4、誰一人取り残さない学力の向上】 （授業力向上・国語） ◎主体的・対話的で深い学びの推進 子どもが考えたい中心発問を設定し、自ら内容を読み取り、自分の考えをもつことができる授業の構築を図る。	B
指標 学期に 1 回、クリティカル・リーディングを学習単元の指導に取り入れる。	
取組内容② 【4、誰一人取り残さない学力の向上】 （授業力向上・算数） ◎主体的・対話的で深い学びの推進 子どもに学習の流れの定着を図る指導に取り組む。	B
指標 小学校学力経年調査における、「学習のふりかえりをしていますか。」に対して、肯定的な回答の割合を 75%以上になるようにする。	
取組内容③ 【4、誰一人取り残さない学力の向上】 （授業力向上・話し合い活動） ◎主体的・対話的で深い学びの推進 自分の考えをもち、自分の考えと比較しながら話を聴き、相違点や共通点に気がつき、考えを深めたり広げたりする学習活動に取り組む。	B
指標 校内アンケートで「自分の考えを伝えていきますか。」「友だちの考えを聞いて、自分の考えと同じところや違うところに気がつくことができましたか。」（低学年）「友だちの考えを聞いて、自分の考えと同じところや違うところに気づき、考えを深めることができましたか。」の項目で、肯定的な回答を 80%以上になるようにする。	

取組内容④【5、健やかな体の育成】（体育の授業・体育的行事） ◎体力・運動能力向上のための取組の推進 専科指導教員と担任との連携を強化し、専門的な指導を取り入れた効果的な体育指導を行う。また、すべての児童が運動に親しむ機会を多く持てるように工夫する。	B
指標 日々の体育の学習の予備運動の際には、俊敏性や切り返しの力が高まる基本的な運動を取りいれるようにする。また、学期に一回全学年で運動に親しむ機会を設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①クリティカル・リーディングを学習単元の指導に取入れているため、問いに対して本文を根拠に自分の意見をもつことができる児童が増えてきている。	
②学習の流れの定着はできてきたが、時間が足りなくて、学習の振り返りまではできていないことが多い。	
③ペアやグループ、全体での話し合いと、話し合い活動を場に応じて取り組むことができている。話し合う機会をなるべく多くとり、自分の考えをもたせてから話し合い活動を行っているため、自分の考えとの相違点や共通点に気がついていく児童が増えた。しかし、低学年では、まだ自分の考えを深めたり広げたりするところにまで至らないときもある。	
④基本的な運動を取り入れながら、児童が運動に親しむ授業を行っている。	
今後への改善点	
①2・3学期も引き続き取組んでいく。その中で、教員自身も教材研究をさらに重ね、児童が主体的により考えたくなったり、話し合いを通してより深い学びにつながったりするような多様な解のある発問の工夫を行う。また、自分の考えを持てない児童への支援の方法や在り方を考えていく必要がある。	
②今後児童が学習を通して何が分かったのか、どのように考えが変わったのか具体的に振り返ることができるよう手だてをとっていくとともに、振り返りの時間を確保する。	
③継続して取り組んでいく。	
④俊敏性や切り返しの力が高まる運動の資料を作成する必要がある。体力や運動能力の向上につながる具体的な活動について検討し、体育の学習で毎時間取り組むようにする。高学年になれば外遊びをあまりしなくなるので、外で遊ばせる習慣をつけていくための工夫がいる。	

(様式例 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 76.0%以上にする。 ○教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。 ○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない。」と回答する児童の割合を 28.0%以下にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（ICT 活用） ◎単元ごとにデジタルドリルやグーグルクラスルーム、スカイメニューを活用し、各学期末にグーグルフォームでアンケートを行い、状況把握に努める。		B
指標 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 76%以上にする。		
取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（働き方改革） ◎働き方改革の推進 会議時間の短縮、校時の短縮、余剰時間の削減、校務分掌の分担割り振りなど、教職員が仕事を持ち帰らずに実質の負担が軽減できるよう改革を推進する。		C
指標 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下にする。		
取組内容③【8、生涯学習の支援】（読書活動） ◎学校図書館の利用推進 図書委員会による読書推進活動、図書館開放、学級図書の改善、読書ノートの取り組み等を通して、読書活動と図書環境の充実を推進する。		B
指標 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない。」と回答する児童の割合を 28.0%以下にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①タブレットの日別活用率は 1 学期 85 %を超えており、日常的にタブレット端末に触れる機会は昨年度より増えている。4 年生以上を中心にグーグルクラスルームを利用した連		

絡帳やデジタルドリルの活用、キャンバでのホワイトボードなどで共同作業や意見交流が盛んにおこなわれた。一方、低学年では心の天気以外で活用できる機会があまりなく、今後どのように活用頻度を上げていくかが課題となる。
②会議時間やゆとりの日による勤務時間の短縮は昨年度よりもできている。しかし、学年内での業務量の差により持ち帰って仕事を行っている教員も一定数いる。また、急な人員不足による業務負担、新しい業務やシステム変更に伴う負担や対応する研修制度の不足、保護者対応等に伴う教員の負担を軽減する体制づくりが必要である。
③図書委員の活動や新しい本紹介等の活動を通じていくつかの学年は読書意欲が高まってきている。しかし、図書の時間以外で活用する児童が少なかったり、読書が直接読解力に結び付いていなかったりなど課題も多い。
今後への改善点
①キャンバや Gemini の活用研修の充実、授業内でのグーグルクラスルームやスカイメニューの利用頻度を上げていく。
②業務に必要な研修などの充実を図る。教員の困りごとや不安に対して学年、学校全体で教員を守る体制・環境作りを進める。
③図書委員会による読書活動の推進、学級文庫の充実、学習に関連する読書の幅を広げる活動を進めていきたい。